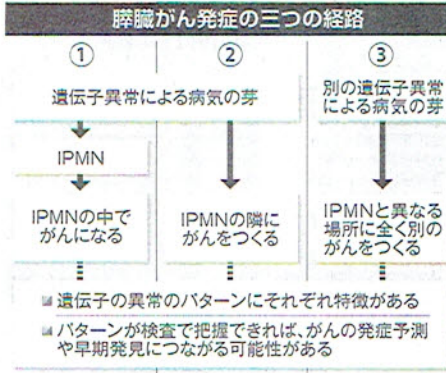


膵臓からの発症経路解明

膵臓がんの危険因子の一つ



研究論文が、米国消化器病学会の機関誌2月号で発表されました。研究チームによると、膵臓は、旭川医科大、札幌東洲会病院、手稲区仁会病院、北大などでつくる研究チームが、膵臓がん患者の遺伝子を解析し、膵臓がん発症に至る経路が三つあり、経路によってがん発症の原因となった遺伝子の異常のパターンに特徴があることを解明しました。膵臓は、膵臓がんになる危険因子の一つ。今後、遺伝子検査で異常のパターンが把握できるようになれば、がんの発症予測や早期発見につながるという期待されています。(編集委員 岩本進)

がんを防ごう

最近、日常生活での座っている時間が問題になっている。座っている時間が長ければ、健康面でもいろいろな問題が起るといわれる。たぐえば、仕事や家事などで座る時間が長くなる。たぐえば、糖尿病、高血圧、ギックリ腰をしないので、肥



着座と脳

旭医大など 遺伝子異常のパターンに違い

論文を発表した今回の研究や、進行中の診断検査の開発で遺伝子解析を行っている。札幌東洲会病院医学研究所のスタッフと次世代シーケンサー



特に、膵臓がんのおおむね半数に当たる「膵管内乳頭粘液性腫瘍(IPMN)」の患者は、1年間で100人に1人という高率で膵臓がんを発症し、膵臓がん全体の1割がそれ以上を占めます。このため、IPMNの患者は慎重な経過観察が必要だとされています。

研究チームは今回、IPMNをもつ膵臓がん患者30人の手術で切除した組織から、顕微鏡でがんや病気の

記憶に関わる領域薄く

記憶に関わる領域が薄く、自分が脳に影響を及ぼすことになる傾向があり、認知症になる危険性が高いという報告がなされました。その報告がなされたのは、座っている時間が長い人は、座っている間に座って仕事を続けるの動作をしていても、認知症の

健康

早期発見へ診断法も研究

体への負担少なく

今回の研究成果を見据え、旭医大と道内の5病院が昨年4月から、膵臓がんやIPMNの患者の血液、膵液、十二指腸液の中に流れた膵臓の細胞の遺伝子のかけらから、遺伝子の異常を調べる診断検査の開発を既に始めています。体液診断(リキッドバイオプシー)という検査法は、体液の採取が患者の体に負担が比較的小さいという特徴

芽の分布や、遺伝子を高速で読み取る「次世代シーケンサー」で18種の遺伝子の異常を調べました。研究で分かった膵臓がん発症に至る経路は次の三つ①②③。

- ① 遺伝子の異常で起きた目には見えない病気の芽がIPMNとなり、さらにIPMNの中でがんになる
- ② ①の芽の一部が枝分かれして、IPMNの隣にがんをつくる
- ③ ①とは異なる遺伝子の異常でできた病気の芽が、IPMNとは異なる場所で別のがんをつくる

一方、同じ患者30人の組織に潜む小さな病気の芽の遺伝子解析では、経路①のがんは、ほぼ全員がKRASという遺伝子で、8割はGNASという遺伝子で異常がありました。これに対し、経路②③のがんは、9割にKRASに異常があり、しか

●電話 011・210・5605 ●ファクス 011・210・5607
●電子メール kurashi@hokkaido-np.co.jp ●ツイッター @doshin_kurashi

おかげさまで販売実績
1,500万袋突破

No.1

杜のすっぽん黒酢®

通常価格 **1,600円** (税別)
2袋以上のご購入で
【税込価格:1,728円】送料無料

厳選純国産
すっぽん

本場福山町産
熟成黒酢

加藤京子 60歳

もう手放せな

自分に自信を持って元気でキレイに歳を重ねられそうです